

## 電子リソース利用上の注意事項

電子リソースを利用する際は、著作権法などの法令に加え、提供元（出版社等）が定める利用規約等を遵守する必要があります。

利用規約等に反した場合は、一個人の行為であっても、ペナルティとして大学全体の利用が停止となり、学習・教育研究に重大な支障をきたしますので、利用の際は以下の点に注意してください。（著作権法違反については、別途、法的責任が発生する可能性があります。）

### 禁 止 事 項

#### 1. 本学の構成員(教職員・学生等)以外の者が利用すること

本学が契約して提供している電子リソース（電子ジャーナル・電子ブック・有料データベース等）は、各提供元（出版社・機関等）との契約により、本学の構成員（教職員・学生等）に限り利用が認められています。

以下の行為は禁止されています。

- ① 非構成員（学外者）に利用させること（ID・パスワードの共有を含む）
- ② 非構成員のために代理で検索・閲覧・大量ダウンロードを行うこと（代理ダウンロード）

※国立国会図書館デジタルコレクションなどの一般公開データベースはこの対象外です。ただし、各提供元の利用規約及び著作権法の遵守は必要です。

#### 2. 個人の学術研究・教育目的以外で利用(ダウンロード、コピー、保存、印刷)すること

電子リソースは 個人の学術研究・教育目的の範囲に限り利用が許可されています。

以下の行為は禁止されています。

- ・ 商業目的や外部組織からの依頼によって利用すること
- ・ ダウンロードした資料を複製・再配布すること
- ・ 共有フォルダやクラウド等を用いて第三者に提供すること
- ・ SNS やウェブサイトは無断転載すること

※授業での利用は「改正著作権法第 35 条運用指針」に従ってください。

#### 3. 大量のダウンロードや過剰なアクセス(ブラウザの先読み機能を含む)を行うこと

電子リソースのダウンロード（保存・印刷）は、個人の学習・教育研究等を目的とする必要な範囲内に限って認められており、文献の収集等を目的とする大量のデータを取得する行為は禁止されています。また、雑誌の一号分をまとめて保存（ダウンロード）することは禁止されています。

出版社はアクセスログを監視しており、短時間に多数のページやPDFを連続して開くなどの行為は、大量ダウンロードと見なされる場合があります。

なお、「大量」又は「過剰」の範囲は、一律の基準があるわけではなく、提供元（出版社等）によって判断されます。

※操作が手動か機械的かは問われません。結果として過剰なアクセスと判断されれば、不正利用とみなされることがあります。

※ダウンロード支援ソフト、スクリプト、文献管理ツール等を用いて自動取得を行うことは、不正利用と判断される危険性が非常に高い行為です。

※ブラウザの「先読み(プリロード/プリフェッチ)」機能により、意図せず大量アクセスが発生する場合があります(通常の閲覧速度でページを順に読む行為は問題ありません)。

《意図しない大量アクセスを避けるための設定例 (2026年3月現在)》

▶ Microsoft Edge: 「設定」→「Cookie とサイトのアクセス許可」→「Cookie とサイトデータの管理と削除」→「ページをプリロードして閲覧と検索を高速化する」をオフ。

▶ Google Chrome: 「設定」→「パフォーマンス」→「ページをプリロードする」をオフ。

#### 4. テキスト&データマイニング(TDM)や生成 AI による学習・解析等を行うこと

電子リソースから取得したデータを、テキスト&データマイニング (TDM) すること、生成 AI ツールを利用 (学習、開発、解析、加工等) すること、又は機械翻訳等のクラウドサービスにアップロードすることは、契約違反・著作権侵害となる場合があります。

教育・研究のための利用については、事前に提供元に相談することで、特別に一定の条件のもとで許諾を得られる可能性があります。ご利用を検討される際は、直前では対応できない場合があるため、事前にお早めにご相談ください。

#### 5. 著作権を侵害すること

電子リソースは著作権で保護されています。

無断転載、内容の変更、出所を偽った引用・転載など、上述以外の行為であっても著作権法違反に該当する場合があります。